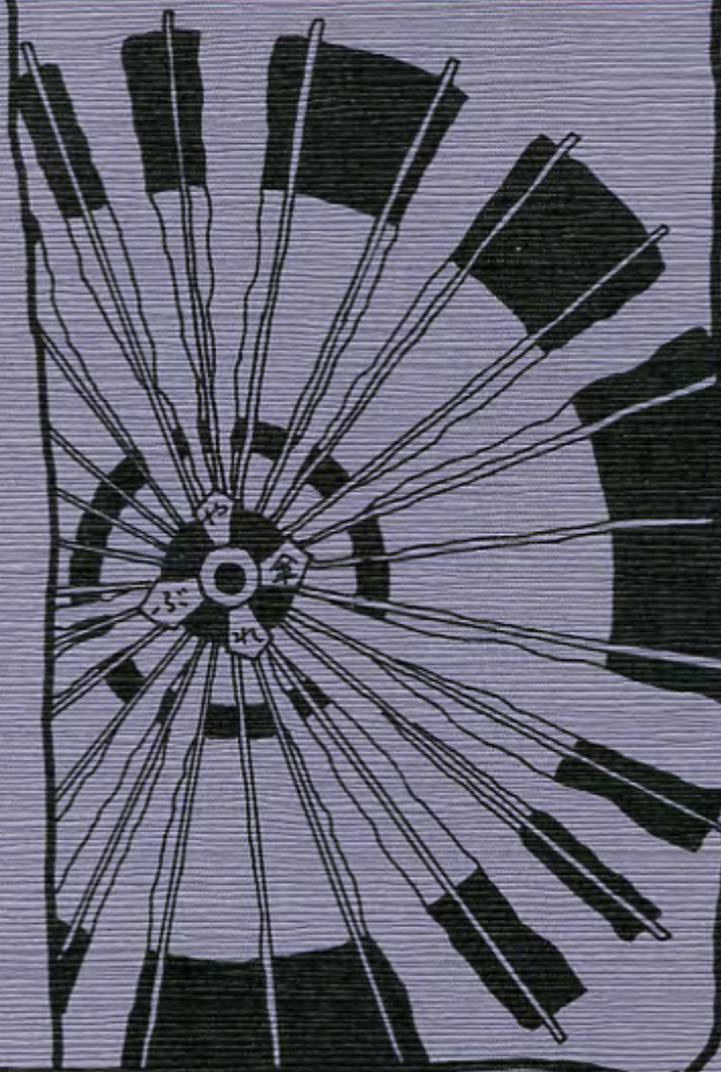


# やぶれ傘



七十二号

二〇二三年六月

小魚のさらりと描かれ麻のれん	根橋宏次
伏流水ここより春の川として	小川 滋
ずぼん吊りピンと弾いて夏来る	きくちきみえ
よき風の中にアスパラガスの花	大島英昭
つと触れてまた触れてみるおじ草	廣瀬雅男
青楓鶯 張りに節の穴	丑久保 勲
ヘネシーとポトルシップと水中花	瀬島酒望
梅雨晴れ間ビルの間を日が落ちてゆく	藤井美晴
花うつぎ鳥啼き雲はちぎれゆく	安藤久美子
かげろふの道行く先をゆらすかな	白石正躬
春灯にガレの花瓶の浮くことし	國保八江
いつになく濁れる川を初燕	渡邊孝彦
天井に蜘蛛ある夜を眠りけり	小山陽子
つまはじくたんぼほの祭午後に入る	久世孝雄
仁王像の腹に鱧割れ棕櫚の花	有賀昌子

抄 集 句 傘 れ ぶ や

大 崎 紀 夫 選

芽吹きたる銀杏並木をランドセル	松村光典
姥捨ての棚田に蝶と石仏	秋山信行
田境の畦黒々と野焼きあと	石原健二
初蝶の飛ばされてをり飛んでをり	大野芳久
和菓子屋の袋に百首うららけし	奥田温子
舞ひ終へて巫女の出てゆく若楓	上林富子
白鷺の紙を散らしたやうであり	菊地葉子
リヤカーの大籠揺るる春落葉	忽那みさ子
売り家あり庭に竹の子顔を出し	小池一司
墓地掃きて春の日ぐれとなりにけり	小巻若菜
夏来る店先に古書積みあげて	齋藤朋子
古稀の身に描く夢あり春田打つ	齋藤 博
柔らかに土盛り上げて地虫出づ	時田義勝
待ち合はす雨の銀座へ単衣着て	貫井照子
山影を列車一輛花菜雨	廣瀬 濟

虚子忌

大崎紀夫

尾を立てて猫の過ぎゆくおぼろかな

淡海へと川水はしる遅桜

鎌倉の亀こぞり鳴く虚子忌かな

はこべらのそばを犬ゆき風がゆき

パリ

丸き実をぶらぶら春のプラタナス

イタリア ピエンツァ

鳩のこゑ春の田舎の電柱に  
淵を出て渦消えてゆく山法師  
雨あとの草ぐさひかる夕河鹿  
橋脚に風のからまる夕立かな  
栈橋に近づくボート櫂あげて  
艇庫へと入りし西日のうすれつつ  
深川に住んで浴衣の似合ひけり

麻のれん

根橋宏次

ひと雨にもぐら鶉となりゆける  
振ればよく鳴つてさみせん草の花  
とびとびの街灯の列おぼろなる  
ぎしぎしや川魚料理店今も  
すかんぽはあかあかと川風の中  
小魚のさらりと描かれ麻のれん  
木洩れ日を顔に人くる立夏かな  
番犬が同じところに柿若葉  
盛り塩に夕日のあたる薄暑かな  
いななきの夏の岬にあがりけり

黒揚羽

小川  
滋

帰る鴨港に旗艦うごかざる  
楼蘭の夢の中なる朝寝かな  
子猫鳴く通りすがりの藪の中  
彼のペンはいづこ蛙の目借時  
遊び場に砂新しく啄木忌  
伏流水ここより春の川として  
春うれひ茶房は長居する造り  
春深き寺に名だたる大草鞋  
黒揚羽方墳こえて来たりけり  
田蛙のふと鳴き止みし夜の底

ずぼん吊り

きくちきみえ

はらからやお玉杓子のいるわいるわ  
ずぼん吊りピンと弾いて夏来る  
柏餅食べたるあとの葉の平ら  
ペットボトル車窓に並べ夏の雲  
自販機にボタンの数多桜の実  
ポップコーン爆ぜるひととき春の昼  
瞬きの追ひつけず桜葉降る  
蒲公英の絮に越されてゆきにけり  
漕ぎ去りてのちふらここの揺れ止まず  
春眠や吊り革の揺れ揃ひたる

十 葉

大島英昭

土の香のなづな咲きゐるあたりより  
桜散るをさなの砂の家のおうへ  
羊蹄や柵に上着の捨ておかれ  
著莪咲いて山の稲荷にワンカップ  
夕五時のオホサカヅキといふつつじ  
石蹴つて下校する児や夏来たる  
じやが芋の花ひとつ咲きふたつ咲き  
木道に昼の日差して行々子  
十葉やここよりのぼり坂となる  
よき風の中にアスパラガスの花

夏帽子

廣瀬雅男

不揃ひにじやがいもの芽は出でにけり  
梨咲くやトタンの錆びし農具小屋  
やどかりの転げて落ちる潮溜り  
菜の花に埋もれし祠詣でけり  
青麦に穂の立つものの二つ三つ  
矢車の音の聞ゆる夜風かな  
瀬音へと花房垂るる胡桃かな  
親指を突き立てて剥く夏蜜柑  
つと触れてまた触れてみるおじぎ草  
江の島は階段ばかり夏帽子

青楓

丑久保勲

囀りや郵便受の立つ空地  
菜の花や畑の真中に耕運機  
バス停に差しかかりぬる花楓  
煮染めむと露の広葉を眺めけり  
回覧板をまはす隣家の花蘇芳  
休講を埋める授業や窓若葉  
石楠花へ枯山水の波寄する  
時鳥祇王寺で徑行きどまり  
青楓鶯張り節の穴  
老鶯の黒木の鳥居入りてすぐ

水中花

瀬島洒望

もぐら塚かも花屑の膨らみは  
入つたと巢箱指差す子供かな  
海市より船現れて入港す  
折からの雨に大島桜かな  
城跡のぶらんこ濡るる狐雨  
四阿に聞く雨音や花楓  
緋躑躅や競技場よりファンファーレ  
萍にくまなく午後の陽差しかな  
夕立に濡るる同士となりけり  
ヘネシーとボトルシップと水中花

滝の水

藤井美晴

鉄くろがねの棘の囲ひに薔薇の花  
娑羅の散る路を娑羅咲く生垣へ  
山裾にバス待ちをれば時鳥  
猫が来て見てゐる宵の辣蕪剥き  
多佳子忌の廬山莊跡草長けて  
ひとつ熟れけりベランダのミニトマト  
雲の縁へり炎のさまに梅雨夕焼け  
梅雨晴れ間ビルの間を日が落ちてゆく  
滝の水日を散らしつつ振よじれ落つ  
海沿ひのでいごの道を歩きけり

## ◇ 7月・8月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
7月	2日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	3日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	27日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	28日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
8月	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	6日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	18日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	平林寺	丑久保 勲
	24日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	25日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

8月18日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR武蔵野線北朝霞駅改札口。吟行地は平林寺。句会場はJR武蔵浦和駅西口前さいたま市南区役所内・武蔵浦和コミセン第1集会室。

◎連絡先 瀬島 孟 ☎048-862-2757 藤井美晴 ☎0422-55-2733  
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870  
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 浦和コミセン ☎048-887-6565  
 丑久保 勲 ☎048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ